

徳島県警察官・警察事務職員等採用説明会

皆さん、こんにちは。

警察本部で採用などを担当している、警務課の坂東と申します。

私からは、警察の仕事や県警察が求める人材像につきましてお話させていただきます。

まずはじめに、「警察の仕事」について、簡単にご説明させていただきます。

皆様方が警察と聞いて、まず最初に思い浮かぶことは何でしょうか。

おそらく「悪いことをした犯人を捕まえる。」であるとか、「交通違反者を捕まえる。」などのイメージだと思います。

警察はどんな仕事をしているのか。それは、警察官の活動の根拠となっている警察法第2条に書かれております。

そこには、

「警察は、個人の生命、身体及び財産の保護に任じ、犯罪の予防、鎮圧及び捜査、被疑者の逮捕、交通の取締その他公共の安全と秩序の維持に当たることをもってその責務とする。」

と規定されております。

平たく言うと、県民の皆様が安心して暮らせる社会を実現するため、

- パトロールや街頭監視をして、犯罪や事故を未然に防ぐ
- 犯罪者を逮捕する
- 犯罪の被害に遭った人を助ける
- 地震や台風などの自然災害が発生した際に救助する

など、様々な活動を行い、県民の皆様を守ることであります。

警察組織は大きく「地域警察」、「刑事警察」、「生活安全警察」、「交通警察」、「警備警察」、「警務警察」の6部門に分かれており、警察官のほか、様々な事務等を取り扱う警察事務職員で構成されております。

私は、高校生の時、通学途中に、強盗殺人事件の現場の前を通りかかったのですが、その際、現場で働く刑事の姿を見て、「自分も刑事になりたい」という憧れを持ち、警察官の採用試験を受験しました。

晴れて警察官となり、その後念願の刑事にもなることができ、これまで主に刑事警察部門で仕事をさせていただきました。

様々な事件捜査に携わらせていただきましたが、数ヶ月にもわたる地道な捜査を行い、犯人を特定して検挙したときは、この上ない達成感が得られるとともに、被害者やそのご家族から感謝されたときは、「刑事をやってよかった。」

と心の底から思うとともに、これが自分の天職だと感じました。

皆様がお持ちの警察のイメージは、刑事であったり白バイであったりパトカーであったり、目立ち、華やかな部分に目がいくと思いますが、それだけではありません。

本日のように、将来を担う若者に警察組織を天職として選んでいただけるよう、地道に採用活動をしている職員もいます。

また、

- 落とし物の返還や施設整備、装備品の調達など、警察活動には欠かすことができない会計部門の職員
- 鑑識や科学捜査研究所で黙々と証拠を採取・照合して、犯罪捜査を支える職員
- 県民の方からの相談を親身になって聞き、それに真摯に対応している職員

など、様々な職員が、様々な活動を行っており、これら全ての職員の一つ一つの活動が、徳島県の治安の維持・向上につながっております。

警察として職責を全うするためには、警察官や警察事務職員に何が求められるのか。

他の仕事も同じではありますが、世の中に楽な仕事はありません。悩み苦しむこともあります。警察についてもしかりであります。

特に、警察官や警察事務職員として長年奉職するためには、職員として必要とされる知識や学力、体力だけでなく、「やる気と熱意」が必要であり、それがないと長年勤め上げることはできないと思います。

私たちが求めるのは、

「警察の仕事が好きで、向上心があり、やる気のある若者」
であります。

おそらく皆様方は、警察は大変な仕事であり、自分で勤まるのかという不安をお持ちの方もいるかと思いますが、誰しも生まれ持って警察官の資質を持ち合わせている人はおりません。私も同じでありました。

警察官として必要な知識や技能は、採用されてから各種研修や仕事を通じて徐々に身に付けていくものであり、何ら心配する必要はありません。

警察の仕事は、「困っている人を助けることができる」、「仕事を通じて社会に大きく貢献できる」仕事であり、他の仕事と比べ、大きな達成感が得られるとともに、やりがいを感じていただける仕事だと思います。

「警察官として現場で直接社会貢献したい。」、「警察事務職員として、警察官を縁の下で支え、間接的に社会貢献したい。」そのように思っているのであれば、是非、採用試験にチャレンジしていただき、これを突破して、私たちと一緒に仕事をしましょう。